

音楽療法

シリーズ～詩編～

2015/5/31

次期王に任じられたダビデ

- イスラエル初代の王サウルは王になってすぐに主の戒めに背いた
 - 自分で犠牲を献げた・戦利品を惜しんで残した
- 主はサウルをあきらめ、次の王を任じるようサムエルに命じられた
- ダビデが次期王に任じられた
 - ダビデは始め候補にも入っていなかった(8番目の息子)・まだ10代であっただろう
 - 羊飼いをさせられていた

サムエル記上16:14～18

主の霊はサウルから離れ、主から来る悪霊が彼をさいなむようになった。サウルの家臣はサウルに勧めた。「あなたをさいなむのは神からの悪霊でしょう。王様、御前に仕えるこの僕どもにお命じになり、豎琴を上手に奏でる者を探させてください。神からの悪霊が王様を襲うとき、おそばで彼の奏でる豎琴が王様の御気分を良くするでしょう。」サウルは家臣に命じた。「わたしのために豎琴の名手を見つけ出して、連れて来なさい。」従者の一人が答えた。「**わたしが会ったベツレヘムの人エッサイの息子は豎琴を巧みに奏でるうえに、勇敢な戦士で、戦術の心得もあり、しかも、言葉に分別があって外見も良く、まさに主が共におられる人です。」**

うつ状態になったサウル王

- 主に見限られたサウル王はふさぎ込むことが多くなった
 - 「主の霊はサウルから離れ、主から来る悪霊が彼をさいなむようになった」14
 - 今で言うところの「うつ状態」？
 - 主なる神が悪霊を送られたのではない
- 家来は豎琴奏者を雇ってはどうかと進言した
 - 豎琴の音色が効果的だと思った！
 - ダビデは豎琴の名手として知られていた

サウル王に雇われたダビデ

- 早速使者がエッサイのもとに遣わされた
 - 「あなたの息子で、羊の番をするダビデを、わたしのもとによこしなさい。」19
- サウル王はダビデをたいそう気に入り、武器を持つ者として取り立てられた
- ダビデが豎琴を奏でると、サウル王の気分が良くなった＜音楽療法＞
 - 「神の霊がサウルを襲うたびに、ダビデが傍らで豎琴を奏でると、サウルは心が安まって気分が良くなり、悪霊は彼を離れた。」23

音楽療法とは

- 音楽は人類の歴史と共にある
 - 「その弟はユバルといい、豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった。」創世記4:21
- アメリカで、第二次世界大戦後、傷病兵の治療に音楽が使われるようになった
 - 音楽家の慰問からその癒し効果が注目された
- アメリカでは「音楽療法」としてその方法や資格が確立している
 - 日本にも「日本音楽療法学会」がある
 - 主に、老人ホームや精神障害者のデイケアなどで用いられている

音楽療法の実際

- 聴く＜受動的＞

- 心を穏やかにしたり, 元気にしたり, 逆にいら
いらさせたり, 不安にさせたりする

- 歌う・演奏する＜能動的＞

- 歌う(演奏する)ことに集中することで, 「無我
夢中」になり, ストレスが軽減される
- 脳の様々な領域(記憶・聴覚・運動)を同時に
使うことで, 脳全体が活性化される

- 運動する・踊る＜能動的＞

- リラックス・リハビリにもっていき

ダビデの音楽

- ダビデはどんな音楽を演奏してサウル王を癒したのだろうか？
- ダビデが使ったと思われる楽器
 - － 豎琴；ヘブライ語では“キノール”・“ネベール”



詩編108篇

【歌。賛歌。ダビデの詩。】

神よ、わたしの心は確かです。
わたしは賛美の歌をうたいま
す。「わたしの誉れよ

目覚めよ、豎琴よ、琴よ。

わたしは曙を呼び覚まそう。」

主よ、諸国の民の中で

わたしはあなたに感謝し

国々の中で

ほめ歌をうたいます。

あなたの慈しみは大きく、

天に満ち

あなたのまことは大きく、

雲を覆います。

賛美は最高の音楽療法

- 神は人間に音楽を与えられた
 - 音楽を造り、楽しむ能力を備えられた
- 神を讃える(賛美)こそ、音楽の最高の利用法である
 - 「イエスを通して**賛美のいけにえ**、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう。」ヘブライ書13:15
- 神の癒しを賛美の中で受けよう！
 - 「イスラエルの賛美を住まいとしておられます」詩編22:3<新改訳>

生ける限り主を

生ける限り主を賛美し
心を尽くして主をたたえよ
神のみ前で安らぎ
賛美し、喜びに満ちる
わが魂よほめ歌おう
心をこめて、声の限り
わが魂よほめ歌おう
力の限りたたえよう